

横浜マラソン出場 救急救命士ら

心肺停止男性へ

マッサージ

11日に行われた「横浜マラソン大会」で、横浜市安全管理局保士ヶ谷消防署の救急係長で救急救命士の吉田茂勇さん(50)らが、ゴール手前で倒れて心肺停止に陥った男性ランナー(46)に心臓マッサージを施すなどして命を救った。吉田さんは今年2月の「東京マラソン」でも、心肺停止のランナーに蘇生措置を施して救命している。相次ぐお手柄に、吉田さんは「救命士の仕事への誇りがまた強くなった」と話している。

1分半後に蘇生

ランナーの命 また救った

市民活力推進局によると、横浜マラソン大会10キロの部に参加していた男性ランナーが11日午前11時半ごろ、山下(中区山下町)のゴール手前約50メートルで、突然しゃがみ込んだ。大会には、吉田さんが会長を務める「横浜市救急救命士会」のメンバー25人がランナーとして参加しており、近くを走っていたそのうちの1人が男性の異変に気づいた。

すでに10キロを走り終えてゴール付近にいた吉田さんら5人の救命士や救護ボランティアらも男性のもとに駆け付け、心臓マッサージと人工呼吸を施した。男性は約1分半後に心肺が蘇生、近くの病院に搬送されて意識を取り戻した。

東京マラソンに続き お手柄

横浜マラソンには、ハーフマラソンや10キロの部などに県内各地などから計7646人が参加していた。

吉田さんは2月の東京マラソンに参加。ゴール目の41キロ付近を走行中、意識を失って倒れ、心肺停止した男性ランナーに遭遇、救護ボランティアの大学生らとともに、心臓マッサージや自動体外式除細動器(AED)で蘇生措置を施し、命を救っている。東京マラソンでの貴重な経験から、同市救急救命士会に横浜マラソンへの参加を呼びかけていた。

吉田さんは「万が一に備えていたかいがあった。人を助ける、という一念で救命士の心がつながった」と話している。